環境経営レポート

令和3年度　（R3年6月～R4年5月）

令和4年9月22日

株式会社　大一建設

環境経営方針

基本理念

現在の地球環境が危機的状況であることを認識し、未来の子供たちに豊かな自然を残すため、環境に配慮しつつ自然に優しい事業活動を継続する。

基本方針

① (株)大一建設は、今までの事業活動が地球環境への配慮に欠けていたことを反省し、社員教育により環境意識の向上を図り、全社を挙げて環境負荷の低減に努力します。

② 近年多発する大災害に対して、建設会社による素早い復旧作業が期待されており、その社会的要請に応えられるよう訓練を強化します。

③ 環境経営の継続的改善を図り、環境経営のステップアップを実践します。

環境保全活動

1. 自社の事業活動が、環境に与える影響を常に観察、認識し、継続的に環境負荷の低減を図ります。
2. 環境関連の法規を遵守します。
3. CO_2, 廃棄物、水の使用量の抑制に努めます。
4. グリーン購入の推進を図ります。
5. 再生資源の積極的利用及び販売を促進します。
6. 社員教育を徹底し、全社一丸となって活動します。
7. 環境経営方針は全社員に周知徹底させると共に社外に公表します。
8. 若手の人材確保を推進します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に改善し、環境経営システムを推進します。

改訂日　　2022年4月2日

徳島県阿南市宝田町平岡899番地4
株式会社大一建設
代表取締役　幸田大作

制作者:幸田弘人

取組の対象組織・活動の明確化

① 事業者名
株式会社　大一建設
代表取締役　幸田　大作

② 所在地
本社　〒774-0045　徳島県阿南市宝田町平岡899-4
産業廃棄物中間処理場　〒774-0045　徳島県阿南市宝田町井関302-1

③ 設立及び資本金
設立　昭和５７年
資本金　2,000万円

④ 環境管理責任者及び連絡先
環境管理責任者　幸田　弘人
環境事務局　幸田　由紀
連絡先　TEL　0884-22-3960
FAX　0884-22-8989

⑤ 事業の規模
売上高　建設業　323.7百万円　産業廃棄物中間処理業　20.3百万円
従業員数　14名
床面積　1,600m2

⑥ 事業内容
土木工事業、とび土工工事業、舗装工事業、
産業廃棄物処分業（中間処理）

⑦ 許可関係
ⅰ　特定建設業許可　徳島県知事許可（特-23）第1907号
許可年月日　令和3年7月2日
有効期間　令和8年７月１日
・土木工事業、とび土工工事業、舗装工事業

ⅲ　産業廃棄物中間処理業　徳島県知事許可番号　3620033901号
許可年月日　平成30年12月28日
有効期間　令和5年12月27日
事業の区分　中間処理（破砕）
種類　がれき類

⑧ 認証・登録の対象範囲:（全組織、全活動を対象とする）
・組織　本社及び中間処理場
・活動　特定建設業及び産業廃棄物の中間処理業

製作日:　R3.9.10
制作者:　幸田　弘人

⑨　施設等

ⅰ　産業廃棄物処理施設（中間処理）

・破砕機(ガラパゴス)処理能力
（コンクリート及びアスファルト破砕）
破砕処理能力　約430t/日（8時間）

ⅱ　重機・運搬車両等

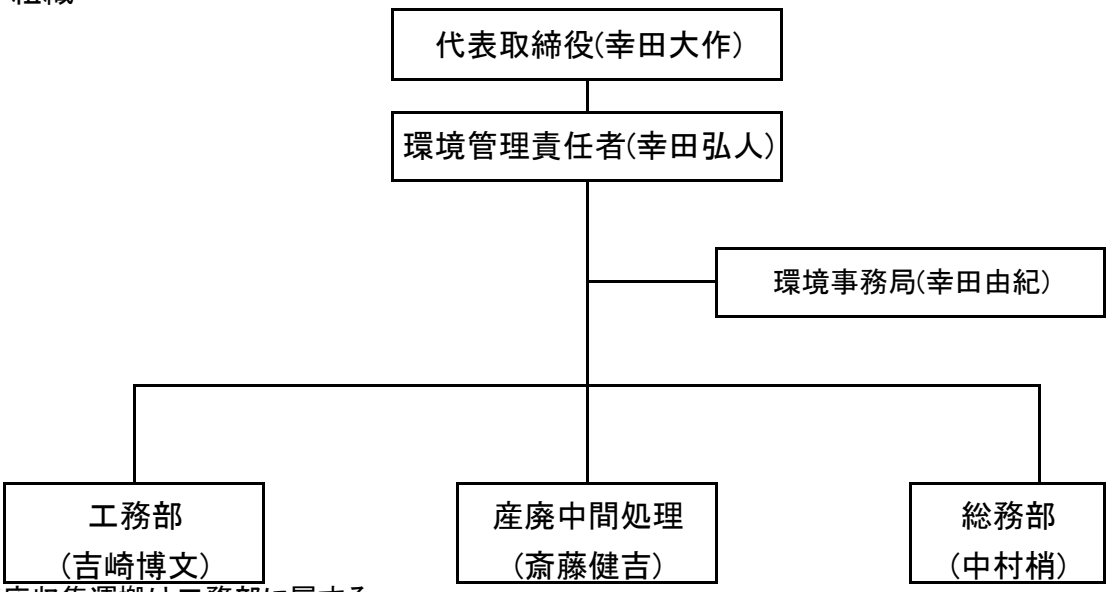
重機・運搬車両等の種類	容量・積載量	台数	備考
バックホウ	0.7	2	
バックホウ	0.45	2	
バックホウ	0.25	1	
バックホウ	0.1	2	
ブルドーザー	18t	1	
ダンプ	10t	2	
ダンプ	4t	1	
ダンプ	2t	2	
ユニック	4t	1	
重機搬送車	10t	1	
破砕機	54t/時間	1	時間処理能力

⑩　処理工程

・破砕処理

コンクリート・アスファルトの受入 → 分別 → 破砕 → 分粒 → 再生砕石
↓
金属くず（有価物）

⑪　組織



★産廃収集運搬は工務部に属する。

製作日　　R4.9.15
制作者　　幸田　弘人

処理実績
（R3年度に処理した産業廃棄物）

①　　産業廃棄物中間処理

★産廃中間処理業で受託した産廃処分量

廃棄物種類	処分方法	処分量(t)
コンクリート	破砕	6121
アスファルト	破砕	2434

廃棄物種類	再資源化種類	処分量(t)
コンクリート	砕石	6121
アスファルト	砕石	2434

②　　産廃収集運搬業の実績は無し

③　　自社元請の処分量(建設業関係)

廃棄物種類	処分方法	処分量(t)
コンクリート	破砕(砕石に再資源化)	825
アスファルト	破砕(砕石に再資源化)	120
廃プラスチック	中間処理(再資源化)	0.72

環境経営目標(会社全体)

作成日：R4.9.15
作成者：幸田弘人

・目標はH30年度実績を基準に、毎年0.5%削減としました。

項　　目		H30年度実績	R4年度目標 H30年比2%減	R5年度目標 H30年比2.5%減	R6年度目標 H30年比3%減
二酸化炭素排出量(kg・Co2)		247277	242331	241095	239859
電力使用量(kWh)		26320	25794	25662	25530
燃料使用量(L)		92750	90895	90431	89968
一般廃棄物排出量(t)		0.53	0.519	0.517	0.514
産廃リサイクル率(%)	自社	100%	100%	100%	100%
	受託分	100%	100%	100%	100%
水の使用量(t)		155	151.9	151.1	150.4
地域清掃		10回	10回	10回	10回
グリーン購入		6品	7品	7品	7品
再生砕石の利用		100%	100%	100%	100%

R3年度環境経営目標とその実績
（R3年6月からR4年5月）

作成日：R4.9.15
作成者：幸田弘人

項目		目標	実績	達成率	評価と対応
二酸化炭素排出量(kg・Co2)		243568	254003	96%	電力使用量・燃料使用量の目標未達成による。
電力使用量(kwh)		25925	33261	78%	現場事務所での電力消費の増加に伴い目標未達成。コロナ対策の蜜を避けるためもあり、現場事務所を2棟にしたことも影響。地道な節電を心掛けるよう周知。今後、まずはこれまでの活動の徹底強化を図る。
燃料使用量(L)		91359	93574	98%	工事量を考えると、目標はほぼ達成。今後とも、エコ運転やハイブリッド車への転換を継続。現場周辺では地元住民の方々の通行を優先するなど安全運転を心掛ける。
一般廃棄物排出量(t)		0.522	0.39	134%	目標は達成。今後もこれまでの活動を継続。
産廃リサイクル率(%)	自社	100%	100%	100%	
	受託分	100%	100%	100%	
水の使用量(t)		152.7	144	106%	目標は達成。僅かずつではあるが、毎年連続して削減できているのでこれを継続。
地域清掃		10回	10回	100%	目標は達成。今後もこれまでの活動を継続。
グリーン購入		7品	7品	100%	目標は達成。今後もこれまでの活動を継続。
再生砕石の利用		100%	100%	100%	目標は達成。今後もこれまでの活動を継続。

電力のCO2排出係数：四国電力0.528kg −CO2/kwh

☆総括

・工事量からすると概ね目標は達成できていると考えているが、現場事務所のエアコン使用に伴い電力消費量が増加している。

・世界の政情不安により石油の価格が上昇しており、今後ますます高騰することが予想されるため、まずは地道な電力削減やエコ運転等を継続していく。また会社及び個人の物品購入の際は本当に必要なものであるか見極めて購入するよう周知した。

令和3年度環境経営活動計画と取組結果
（R3年6月からR4年5月）

作成日：R4.9.15
責任者：幸田弘人

活動項目	具体的活動	担当者	達成・実施状況 年間	評価・指示
環境経営目標	炭酸ガス排出量	総務部	△	燃料高騰がますます懸念されるのでハイブリッド車への移行とエコ運転を徹底するよう周知した。
	上水使用量		◎	毎年少しずつ削減しているので継続するよう周知した。
	廃棄物排出量		○	物価上昇が予想されるので、必要なものとそうでないものを見極め、物品を購入するよう周知した。
電気使用量の削減	冷暖房の使用を控える	総務部	○	・夏場の冷房時における使用抑制や温度設定の取組が不十分であり、電気料金が高騰することが予想されるので、電気消費削減の計画手順を順守するよう周知した。 なお、猛暑がつづいたためエアコン使用は奨励した。
	使用する場合、夏場28度		△	
	冬場20度		○	
	こまめに消灯する		◎	・社員がいない部屋は消灯することが定着しているので継続していきたい。
燃料使用量の削減	低燃費走行を心掛ける	工務部	○	・低燃費走行、アイドリングストップを継続し燃料費を抑制するよう周知した。なお、ハイブリッド車への移行が進んでいる。
	アイドリングストップの励行		○	
	点検をこまめに行う		◎	・定期及び自主点検は確実に実施している。オイル交換は5000キロを目安に実施するよう周知している。
節水	こまめに蛇口を閉める	総務部	◎	・節水意識が社員全員に定着し、使用量は減少している。
地域清掃活動	道路・河川清掃活動に参加	工務部	◎	・確実に参加している。
廃棄物の削減	再利用の徹底	総務部	○	・まずまずできている。
	購入時に再資源できる物を購入		○	
	用紙の両面使用の実施		○	・コピー用紙の両面使用を周知している。
グリーン購入の促進	再生材料から作られた製品を優先的に購入	総務部	◎	・事務用品を中心に使用品目を徐々に増やしていきたい。
再生資源の積極的利用及び販売	再生砕石の利用・販売	工務部	◎	・100%の使用を継続していきたい。
現場における環境配慮	低騒音、低振動機械の使用	工務部	◎	・現場では低騒音・低振動の機器を使用し、買い替え時にはハイブリッド型、低燃費型の機器を購入している。
	環境パトロールの実施	工務部	◎	・社長と環境管理責任者によるパトロールを月1回実施している。

※具体的活動の日程：冷房時の設定温度(第1四半期)、暖房時の設定温度(第3四半期)。これ以外については、通年実施。
※実施状況のチェック：8月　11月　2月　5月
評価　◎　十分できている　　○　ほぼできている　　△　まだ不十分である　　×　できていない

令和4年度環境経営活動計画
（R4年6月からR5年5月）

作成日：R4.9.15
責任者：幸田弘人

活動項目	具体的活動	担当者	達成・実施状況 年間	評価・指示
環境経営目標	炭酸ガス排出量	総務部		
	上水使用量			
	廃棄物排出量			
電気使用量の削減	冷暖房の使用を控える	総務部		
	使用する場合、夏場28度			
	冬場20度			
	こまめに消灯する			
燃料使用量の削減	低燃費走行を心掛ける	工務部		
	アイドリングストップの励行			
	点検をこまめに行う			
節水	こまめに蛇口を閉める	総務部		
地域清掃活動	道路・河川清掃活動に参加	工務部		
廃棄物の削減	再利用の徹底	総務部		
	購入時に再資源できる物を購入			
	用紙の両面使用の実施			
グリーン購入の促進	再生材料から作られた製品を優先的に購入	総務部		
再生資源の積極的利用及び販売	再生砕石の利用・販売	工務部		
現場における環境配慮	低騒音、低振動機械の使用	工務部		
	環境パトロールの実施	工務部		

※具体的活動の日程：冷房時の設定温度(第1四半期)、暖房時の設定温度(第3四半期)。これ以外については、通年実施。
※実施状況のチェック：8月　11月　2月　5月
評価　◎　十分できている　○　ほぼできている　△　まだ不十分である　×　できていない

□ 関連法規制等の遵守状況

法的義務のある主な環境関連法規制は次の通りである。

環境基本法	騒音規制法
グリーン購入法	振動規制法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（産廃）	オフロード法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（一般）	フロン排出抑制法
建設リサイクル法	徳島県環境基本条例
特定家庭用機器再商品化法	徳島県生活環境保全条例
浄化漕法	阿南市環境基本条例

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。
また、過去3年間にわたって、関係当局による違反等の指摘や訴訟もありませんでした。

作成日：令和4年9月15日
制作者：幸田弘人

代表者による全体評価と見直し結果（R3年度）

令和4年9月22日

活動期間：令和3年6月～令和4年5月　　代表者　幸田大作

全 体 の 評 価（代表者）

1. 環境経営目標・計画達成状況（実績と評価）

工事量の比較では、目標は概ね達成できたが、電力削減だけは目標達成はできなかった。熱中症予防のためエアコンの使用を奨励したことやコロナ対策のため現場事務所を2棟設けたことも影響している。ますます物価上昇が懸念されるので、今までにも増してエコ対策を徹底して実行することが重要である。

2. 是正及び予防処置

塵埃飛散の苦情が1件発生したため即座に是正処置を施し以後苦情はなかった。また全国で大水害が頻発していることから、排水ポンプ車の操縦訓練を予防処置として実施した。

3. 法的要求事項の遵守状況

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制等の逸脱はなかった。

4. 組織体制の見直し

組織体制の見直しは行わない。

見直しの必要性及び指示事項（代表者）

1.環境経営方針：①変更する　**②変更しない**

指示

2.環境目標・環境活動計画：①変更する　**②変更しない**

指示

3.組織体制の見直し：　①変更する　**②変更しない**

指示

現行の実施体制は適切に機能しており、組織体制の変更の必要性はないと考えている。

その他